

授業科目名	在宅看護学実習	担当教員	講師 竹田裕子 他		
開講年次及び学期	4年前期	必修・選択の別	必修		
開講形態	実習	時間数	45	単位数	1
授業の目的（概要）					
<p>健康問題をもって在宅で生活する人々とその家族の特性を理解し、健康と生活とのつながりを総合的に捉えることにより、自立に向けた支援の基礎的能力を養い、生活者としての尊厳を基盤とした看護について学ぶ。</p> <p>健康問題をもつ在宅療養者とその家族について看護実践を通して理解し、在宅療養者とその家族のセルフケア能力に応じた看護計画を立案する。また、在宅ケアシステムにおける連携や協働の必要性、看護職の役割について理解する。</p>					
学修成果（到達目標）					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護制度の概要を理解し、その機能、役割、意義について説明できる。 2. 在宅看護過程を展開し、在宅看護における情報収集とアセスメントの視点から在宅療養者とその家族の健康上の課題を抽出することができる。 3. 健康上の課題に対して目標を設定し、在宅療養者とその家族の生活に応じた具体的な計画を立案することができる。 4. 在宅看護技術を理解し、在宅療養者やその家族に合った看護ケア及び生活援助ができる。 5. 訪問看護ステーションの管理、運営、機能について理解し、他機関や他職種との連携について説明できる。 6. 介護保険制度等にもとづく利用者のケアマネジメントについて説明できる。 7. 在宅療養を支える社会資源の活用方法について理解し、地域における看護職の役割について説明できる。 					
キーワード					
在宅療養者（児）、ケアマネジメント、社会資源、訪問看護、多職種連携、看護過程、介護保険					
授業の進め方					
実習（訪問看護師の訪問に同行し看護全般の見学あるいは可能な範囲で実践を行う。訪問対象者の中から1事例について詳細な情報収集とアセスメントおよび看護計画を立案し、最終カンファレンスで発表する。）					
成績評価の方法（合否基準）					
実習記録やレポートの内容・提出状況、出席状況や実習態度、カンファレンスへの参加、指導者の意見を参考にして担当教員が評価する。					
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材					
<p>【教科書】河野あゆみ編：新体系看護学全書 在宅看護論 第5版，メヂカルフレンド社，2019.</p> <p>【参考書】河原加代子，他：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 第5版，医学書院，2017. 臺 有桂，他編：ナースング・グラフィカ 在宅看護論②地域療養を支える技術 第1版，メディカ出版，2018.</p> <p>* 「在宅看護学実習の手引き」をMoodle上にアップする</p>					
オフィスアワー					
竹田裕子（地域・老年看護学講座）質問等随時 E-mail：y.takeda@med.shimane-u.ac.jp					

モデル・コア・カリキュラムとの関連

F 臨地実習

F-1 臨地実習における学修

F-1-1) 臨地実習における学修

「A 看護系人材（看護職）として求められる基本的な資質・能力」を常に意識しながら、臨地実習を行う。

F-1-2) 臨地実習における学修の在り方

人々の治療や生活の場とそれらを支える社会資源の実際を知り、人々と関係性を築きながら、看護学の知識・技術・態度を統合し、実践へ適用する能力を身に付ける。

F-2 ケアへの参画

F-2-1) 看護過程に基づくケアの実践

多様な場で多様なニーズを持つケアの受け手に対して適切なケアを提供するための基礎的能力を身に付ける。また、看護過程におけるアセスメントの重要性と看護過程が循環する一連のプロセスであることを学ぶ。

F-2-2) 安全なケア環境の整備

多様なケアの現場で安全なケア環境を整備することの重要性を認識し、予防行動を遂行できる。また、インシデント（ヒヤリ・ハット）を起こした場合は、報告の必要性和重要性を理解し、適切に報告できる。

F-2-3) チームの一員としてのケア参画

チームの一員として、チームメンバーの指導を受けながらケアに参画すること、また実習グループメンバーによる協働学修を通じて多様な場で多様なニーズを持つ人々に対応するための基礎的能力を育成する。また、チームの一員として活動できる態度を養う。

授業計画

実習内容

<学内導入学習>

- 1) 実習前オリエンテーションを踏まえ、在宅看護学実習に必要な知識・技術を事前に自己学習する。
- 2) 在宅看護学のテキスト以外にも実習期間中に活用できる文献・資料を予め準備しておく。
- 3) これまでの看護学実習の学びをふまえた在宅看護学実習における自己目標と、自己目標を達成するために在宅看護学実習で経験したいことを「実習自己目標」に記載し提出する。

<実習1日目～実習5日目>

- 1) 実習指導者から実習施設と周辺地域の概要、利用者の概要・特徴・構成、訪問看護職の役割・機能等のオリエンテーションを受ける。
- 2) 実習指導者から訪問対象者の提示を受け、訪問対象者についてカルテや看護師から情報収集する。
- 3) 訪問までに実施したいケアや情報収集したい項目等を同伴する訪問看護師へ報告し、訪問時の手順や内容の打ち合わせを行う。
- 4) 訪問看護師と同行訪問を行い、在宅における看護全般の見学あるいは実践を行う。訪問後、訪問で得た情報等を追加する。また、行った看護を評価する。
- 5) 毎日30分程度のカンファレンスを開催し、その日の学生同士の体験や学びについて意見交換をして、学習を深める。カンファレンスの内容は、当日の目標や内容をふまえての振り返り、気づき、学び、疑問、検討したいこと等に基づいて、実習体験の意味づけをし、効果的なものとする。
- 6) 訪問対象者の中から1事例について詳細な情報収集とアセスメントおよび看護計画を立案する。複数回の訪問が可能な場合は計画に基づいたケアを実施し記録する。最終カンファレンスの時に発表し、実習指導者や担当教員より助言、指導を受ける。
- 7) 在宅看護学実習の体験を振り返り、在宅看護について自分の考えをレポートにまとめる。

- ・ 県内の訪問看護ステーションで実習を行う。実習施設の規則を守り、ケアチームの一員として行動する。また、ゲストとしてマナーを守り同行訪問する。
- ・ 時間を守り、欠席、遅刻、早退の必要が生じた時には速やかに実習指導者、担当教員に連絡する。そのほか実習については随時担当教員に報告・相談する。